



# 城南中だより

第 7 号  
令和 8 年 9 月 30 日 発行

学校教育目標 希望と愛をはぐくむ美と活力の学校

～常に『思考』を大切にして、『創造』と『進化』を続ける魅力ある学校～

〒339-0034 さいたま市岩槻区笹久保577 TEL 048-798-0007 さわやか相談室直通 048-797-0514

## 「練習は裏切らない」 ～ 失敗を活かすこと

校長 吉 原 誠 士

「朝の会」の時間帯に企画された、図書委員会の「読み聞かせ」に紛れ込んでみました。事情により実施できないクラスがあると聞き、自分の本を持って飛び出したのです・・・しかし、あまりうまく読めなかったというのが素直な反省です。小学校で管理職をしていた頃は毎年やっていたことですが、数回の黙読しかしていない状態でのトライ、しかも8年ぶりでは厳しかったようです。人前に立つことに慣れてはいても、十分な準備が必要な場合があります。改めて「練習は本番を裏切らない」という一言を思い出し、絵本の選択も含めてリベンジを誓いました。

3年生にも来春の入学試験にあたって不安解消のための練習が必要だと考えます。生徒が大舞台を迎えるにあたって、私は担任時代も校長になってからも、全く知らない人たちと一緒に受ける模擬テストを奨励しています。「模擬」は「本物の状態や行動を真似まねして行う」という意味です。本番で同じ問題が出される可能性は高くはありません。しかしあらかじめ「場を知ること」は、いざという時に集中力を高める、他人の言動に振り回されない、という自分に有利な状況を生みます。習い事ではリハーサル、部活動やクラブチームでは練習試合が、同じ「模擬」にあたる設定です。

「模擬場面」で「不具合の発見に努め、それへの対応と調整を意識して行うこと」はとても大切な心構えです。この段階では失敗を恐れる必要はありません。自力解決じりきかいけつも大事ですが、うまく進まなくなったら身近な指導者にヒントをもらい、自分で考えるとよいでしょう。また、「他人が上手くいかなかったやり方をそのまま採用するとほぼ失敗につながる」ことから失敗例の共有も有効なことがわかります。私は多くの人たちに「失敗の収集」をすすめています。面白いことに「他者の成功例を用いてもうまくいくと限らない」、これは自分に合わせて考え直すことの大切さを示します。

10月には合唱コンクールが控えています。学年、学級練習でも上と同じことが言えるのではないのでしょうか。冒頭に書いた「練習は本番を裏切らない」、それに加えて「やったことは無駄にはならない」ことを結束の合言葉にしたいものです。個人の声出し、パートによる練習、学級全体での声合わせ、これらは挑戦と失敗、さらなる調整・修正という、トライアンドエラーの連続になるでしょう。これはよい作品を仕上げるまでの避けられない道です。勝負の行方は当日までわかりません。よき思い出のためにも、そして「歌う学校」の矜持きょうしが示されることも期待しています。

→ 先月号の「校章と徽章」について地元の方からお電話いただきました。「『白鶴城』と呼ばれていた岩槻城にちなんだ市内各校は『鶴』をデザインに取り入れた校章になっている」とのことです。作成当時に学校でされたお話をお寄せいただきました。ありがとうございます！

→ 10月4日の「岩槻祭」では「城南雛」が展示される予定です。